

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270102629		
法人名	有限会社ヘルパーステーションぬくもりの家		
事業所名	グループホームぬくもりの家		
所在地	長崎県長崎市大手2丁目1番63号		
自己評価作成日	令和4年8月21日	評価結果市町村受理日	令和4年11月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和4年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物は古い木造の家で、今年何ヶ所か大家さんにより床など修理等しました。経営者が変わり2年経ちましたが、グループホームとしては以前と変わりなく家庭的な空間を意識し、個人の意見を尊重し生活できるようにし又、ラジオ体操、軽体操、機能訓練、レクリエーション等は本人のペースで参加して頂いています。現在もコロナ禍で面会できにくい状態ではありますが、コロナ禍の前は多くの家族の方等に来て頂いていたので、コロナ禍が終ればまた気軽に来やすいようにし家庭的な雰囲気をアピールして行きたいと思えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは住宅密集地の一角に位置し、職員が日常的に近隣住民と挨拶を交わしたり、前面駐車スペースを無償で提供するなど、地域住民との関係を築いている。理念である「ぬくもり、えがお、やさしさのある介護」をリビングやエレベーター内に掲示し、職員全員で共有しながら入居者がホームで自分らしく暮らしを続けられるよう支援している。定期的に発行する「ぬくもりの家新聞」では、入居者の日頃の様子や行事、地域との交流の様子など、写真を掲載して伝えており、入居者や家族に喜ばれている。協力医の往診が毎月第1木曜日にあり、健康面においても安心して暮らせるよう連携して支援している。リビングや居室に加湿器を設置し、消毒や次亜塩素酸水を噴霧するなど入居者及び職員の感染対策に留意し、支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員がいつも目に触れる所に表示し、日頃から職員同士で理念に込められた思いを話し合い、職員が同じ方向性を持って職務に取り組めるようチーム意識を持ち実践につなげている。	毎日の朝夕の申し送り時や、毎月1回の職員会議で、理念に基づくケアについて共有し、実践につなげている。理念「ぬくもり、えがお、やさしさのある介護」を玄関やリビングなどに掲示しており、管理者や職員はいつでも確認し、入居者により良い介護を提供できるよう日々取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所との挨拶や声掛けを大切にし交流を図っている。お互い助け合いながら信頼関係を深めている。	近隣の住民と挨拶を交わしたり、ホーム前面の駐車スペースを地域住民に開放するなど、互いに助け合いながら信頼関係を築いている。自治会にも加入し、回覧板を受けてホームで情報を共有するなど、入居者が地域の一員として暮らし続けられるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交流を始め、運営推進会議等を通じて認知症高齢者の方々の理解や支援を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在コロナ禍のためにホームでの会議は実施されてないですが、書面にて活動内容を報告して意見交換している。	運営推進会議は、新型コロナウイルス感染症の予防のため、現在はホームの活動内容を書面にて自治会長、副会長、民生委員、市福祉総務課、地域包括支援センター、家族代表、近隣住民に郵送している。各委員より出された意見を検討し、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村等の情報や資料は必要に応じて閲覧し、情報の共有をしている。運営推進会議の内容は市役所の方にも報告しているので情報交換し助言等も頂いている。	市福祉総務課の担当者が運営推進会議に参加し、ホームの活動状況を伝えている。日頃より入居者やホームの運営について相談し、問題等が発生した時には速やかに解決できるよう連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束が必要な利用者様は現在入所されていないのですが、今後も身体拘束をしないように心掛けていく。	ホームでは身体拘束適正化のための指針を整備し、定期的な勉強会を開催しており、管理者及びすべての職員が身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。勉強会に参加できなかった職員には、議事録や資料等を閲覧してもらい、周知を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から職員同士で話し合い個々の認識意識を深め日々のケアに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	参加した勉強会で学んだ事を必要な時に活用出来るよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や締結、解約の際は口頭や文章で説明し、又疑問や要望がないか伺っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍が長くなっている中であっても、電話等を利用して要望がないか等を聴き、それを共有できるように申し送りノートの利用をしている。	ホーム内にご意見箱を設置し、家族が来訪時に意見を投函できるようにしている。入居者の意見や要望は日々の支援の中で聴き取り、必要に応じて介護計画に反映している。家族の意見や要望は、面会や利用料金支払いの来訪時、または、日頃の電話連絡時に聴き取り、運営に反映している。	サービス提供の開始には、外部評価(第三者評価)の受審状況をあらかじめ重要事項説明書で説明することが求められていることを踏まえ、今後、外部評価(第三者評価)の有無、評価実施年月日、評価機関名、評価結果の開示状況を明記し、重要事項として家族にも説明できるよう取り組むことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日常生活の中で、意見や提案など聴き対応し、普段から話しづらい雰囲気を作らないように心掛けている。職員一人ひとりが自分の考えや意見を話せるように時間を作っている。	毎月初旬に職員ミーティングを開催し、管理者は全職員より意見や提案を聞く機会を設けている。また、日頃より管理者が職員一人ひとりから意見を聴き、必要な提案を受け入れてホームの運営に活かしている。	令和4年度よりハラスメント対策の強化が求められていることを踏まえ、ハラスメントマニュアルの作成や相談窓口の設置、職員研修等、環境整備に取り組むことで、職員がホームの運営に関する意見や提案がより反映できる体制づくりに期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がいつも目に触れる所に表示し、日頃から職員同士で理念に込められた思いを話し合い、職員が同じ方向性を持って職務に取り組めるようチーム意識を持ち実践につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のケアの向上と力量を把握し、研修や勉強会を通じて、意識向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会の参加によりお互いの情報サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安や要望をゆっくりと面談、傾聴し安全に生活できるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、その後の入居申し込み等時、困っている事、要望に応えられるよう家族の思いに寄り添えるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の現状を確認しながら必要なサービスを話し合い対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の不安や要望をゆっくりと面談、傾聴し安全に生活できるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の連絡、現状報告や困りごとの支援を行い関係を保つようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の面会には居室でゆっくりと時間を楽しんで頂き、次回も気軽に来て頂けるように、また電話での会話ができるように支援している。ただし現在はコロナ禍の為に窓越し面会になっています。	現在、コロナ禍により馴染みの場所や人との関係継続の支援については、地域の感染状況を見極め対応している。本人が暮らしてきた地域の情報を入手したり、馴染みの友人や知人との関係を把握して継続できるよう窓越しの面会を行うなど取り組んでいる。感染対策を講じた家族との外出もできるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	個々の性格や状態を把握し入居者様同士が 仲良く楽しく過ごせる様レクリエーションなどを 行いお互いの関わり合いを大事に出来る努 めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて家族の方に連絡を取り状態を 伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	常に声掛けをして、意向や訴えを把握し一人 ひとりの希望に添えるよう支援している。	日頃より職員が入居者一人ひとりと対話すること で、「ぬり絵をしたい」など入居者の思いや暮らし 方の意向等の把握に努め、その人らしく暮らせる よう取り組んでいる。入居者が思いや意向を伝える ことが困難な場合は、家族との面会時や電話を かけた際に確認し、入居者本位に確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	紹介先からの情報を参考に本人様やご家族 の話の聞き取りをして一人ひとりが自然に生 活出来るようなサービスの提供が出来るよう 努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの体調やペースに合わせて過ご して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の方にホームでの暮らしの要望を確認し、ホーム全体で話し合い作成している。面会時状態に変化があれば話し合い又、意見があれば伺い介護計画に反映している。	入居者本人や家族より、暮らしに関する要望を確認し、担当職員からの情報や提案を踏まえて、ホーム全体で検討し介護計画を作成している。介護計画の内容は職員が確認し支援に活かせるよう入居者毎にファイリングし、手に届く場所に保管している。	入居者へのアセスメントに関し、課題分析標準23項目に沿った必要な情報を洩れなく収集を行い、職員間で情報共有することが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録に残し、情報の申し送りを共有し気づきや変化があれば介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の思いがあれば、他機関へ確認しながらサービス計画へ反映できるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナ禍でありますので地域の交流は難しいですが、コロナ禍が収まれば行事に参加したいと思っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に沿ったタイミングで受診を行い、必要な医療を受けられる支援を心掛けています。月1回の主治医による訪問診療も継続して行っている。	毎月第1木曜日に協力医の往診があり、入居者の健康管理を行い、安心してホームで生活できるよう支援している。入居者が入居前のかかりつけ医を受診する場合は、家族対応を基本としているが、家族対応が困難な場合は、ホーム職員が送迎や付き添いを行い、家族へ受診結果を報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康観察を介護職が行い、健康管理を看護師が努め、かかりつけ医との連携をすみやかに行う体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院が必要となった場合の対応と入院中及び退院に向けての支援と病院側と連携して行うよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については入居時に家族に説明し同意を得ている。特別な対応や治療を必要とする場合は主治医を中心に話し合いをする。場を作るように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を行い各職員の知識の共有に努めている。また急変時対応マニュアルを活用し全ての職員が急変時対応が出来るよう働きかけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に2回の避難訓練と毎月の会議の時に勉強会や月例避難訓練を行っている。運営推進会議を利用して、地域の方々と協力体制を築いている。	2か月に1回、消防及び災害時の自主避難訓練や研修を実施している。訓練に参加できなかった職員には避難訓練実施記録を回覧し周知している。コロナ禍以前は、運営推進会議時に合わせて避難訓練を開催し、自治会長、副会長、民生員などが出席し協力体制を築いた。今年度は消防署立ち合いの下で訓練を予定している。	近年、災害への対策の重要性がますます高まっており、災害時の役割分担の明確化と職員への周知が望まれる。備蓄一覧表の食材に関し、消費・賞味期限を記載し管理することが望まれる。避難時に持ち出す入居者情報一覧に関し、状態が分かる写真(車椅子や杖など)を加え、避難先で円滑な情報提供に繋がることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の生活で人格、プライバシー、プライド等を損なわない対応を心掛けている。	職員は、日中テレビを見て居室で過ごす事を希望する方には自室で過ごせるよう支援し、職員が入室する際にはノックと声掛けを行っている。居室にポータブルトイレを置く場合は布をかけプライバシーに配慮している。トイレ誘導の際は、他者に気づかれないよう留意し、本人の耳元でやさしく声掛けを行い、入居者の誇りやプライバシーを護っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話や声掛けで思いや気持ちを押し測り思いの発出が出来るように支援し働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各入居者の一日のペースを把握し希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝鏡の前で容姿のチェックをして頂き、出来ない所を職員が手を貸し身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は谷シミの一つであるのでなるべく美味しく食べてもらえるように献立、栄養バランスに気を配っている。	食事は職員が地元の旬の食材を購入し、ホームで手作りし提供している。毎月1日は赤飯、誕生日にはちらし寿司やケーキを提供し、正月にはおせち料理など、季節感が楽しめるよう取り組んでいる。入居者が健康に暮らせるよう献立や栄養バランスにも配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲食の量は各個人違うので記録する事で状態の変化があった場合に変更したり、状態把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い又、週1回の歯科衛生士の指導の下、衛生、清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し排泄の確認とチェックのもと排泄を支援している。入所前はオムツ使用されてた方でも入所後はリハビリパンツに変更された方が2名いらっしゃいます。	毎日、入居者一人ひとりの排泄状況を排泄チェック表に記入し、排泄パターンを把握して、適宜声掛けを行いトイレへ誘導し、失禁を未然に防いでいる。また、排泄時に声掛けを行い、可能な限り本人自身で排泄ができるよう排泄の自立に向けてホーム全体で取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各勤務帯での排便チェックを欠かさず行い、必要時は主治医より緩下剤の処方依頼するなどすみやかな対応を行うようにしている。食事バランスの取れたものを職員が毎食自炊して提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりに合わせて入浴できるように努めている。月曜日から土曜日までに入浴日を設けているので状態、状況に応じて支援している。	週2回を基本として入浴支援を行っている。入居者個々に入浴予定を組んでいるが、本人のその日の気分や体調等に合わせ、別日にも入浴ができるよう配慮している。家族から入浴剤の提供を受けたり季節感がある柚子湯を行うなど、入浴が楽しめるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースに合わせて休んで頂き、室内の温度調整に注意しながら対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の管理を厳重に行い、お薬手帳を活用して、各利用者の内服状況の理解に努めている。内服の調整を主治医に積極的に働きかけ連携している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、個々の能力や気分に応じて出来る事を行って頂いている。その月の行事等を行うなど楽しみや気分転換に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の中で、外出や家族との関わりが制限されるが、それでも一人ひとりが意義ある一日を過ごして頂けるよう傾聴し努めている。	現在、新型コロナウイルス感染症予防のため、病院受診以外の外出は控えており、入居者がホームの縁側で日光浴を楽しめるよう支援している。今後は感染状況を踏まえつつ、ドライブで季節の花見や、ホーム周辺の散歩等、外出を検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	最近入所された方が、「お金を全然持っていないので不安で・・・」と言って来られた。そこで預かり金から手渡し家族に説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	不穩等が重なった時には家族にも協力して頂き、電話で話してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調の温度、湿度、部屋の換気には随時注意を払い環境を整えるように心掛けている。四季折々の物が感じられる様に工夫されている。	リビングや廊下の壁面に、近隣保育園児との交流時の写真や、入居者が制作した季節の花のぬり絵等を飾るなど、季節感を採り入れている。ホーム内の換気は縁側にある大きな窓を適宜開放し、また、次亜塩素酸水を使用した加湿器を設置し、感染対策に留意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご夫婦の気の合った者同士過ごしておられる。思い思い自分の部屋に戻り、ゆっくりと過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時から本人、家族へ使い慣れた物を持ってきて頂き、必要に応じて心地よく安心して過ごして頂けるように配慮している。	使い慣れたテレビや大切な仏壇などを居室に持ち込まれており、入居者が居心地よく暮らせるよう支援している。壁面には家族の写真や入居者が制作した季節のぬり絵などを飾り、家庭での生活を延長できるよう配慮している。全居室には次亜塩素酸水を使用した加湿器を設置し、感染対策に留意している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を考慮し、物の配置には注意している。出来ない事、わからない事は言葉かけ等工夫している。		